



日立一高ラグビー部OB会 会報

<http://www.ichiko-rugby-obc.com>

○ 平成19年度 役員会開催報告

今年度の中間時を迎え、年間計画のフォローアップを行う役員会を1月3日(水) 蹴り初めのあと、役員12人、指導者3人、先生、父母の会代表2人の合計18人で開催した。

今回は前年度全国大会県予選ベスト8進出と新年のお祝いを兼ねたので、役員以外の方にもご参加いただいた。年間計画実行上の諸々の課題について意見を交換した内容をご紹介します。

1. OB会費の徴収大幅未達成

予算では250人で600,000円を徴収することにしたが、12月時点でまだ68人で265,000円(44%)と大幅な未達成となっている。

※ OBが600人もいて、68人の納入は余りにも少なく、現役の支援が出来なくなってしまいます。

1-1. 広報活動による啓蒙

この会報でのお願いと学年幹事宛に当該学年の納入状況を報告し、未納者に対し納入依頼のフォローアップをして頂く。

振込先：常陽銀行 普通預金 No. 6827091 口座名：日立一高ラグビー部OB会 会長 吉田尚一

1-2. OB会報への広告掲載

会費だけでは大幅な不足となるので、OB会報に広告を掲載し、広告料を頂戴する。

- 1) 時期 来年度から原則年2回発行するOB会報に掲載
- 2) 金額 1社当たり、年間1～3万円
- 3) 内容 会社名、役職名、氏名、卒年とし、絵、写真は使わず、大きさは全部一律同じとする。
- 4) お願い方法 会長名で封書にてお願いし、賛同を頂いた会社を掲載する。領収書を発行する。

※ 全体目標 30万円以上

2. 現役の支援強化策

現役、先生、そして父母の会、OB会が協力し合って強化されるものである。

現状から見ての強化策を挙げてみる。

2-1. 部員の確保

1) 強化策の第一は部員の確保である。入学してきた生徒の中から入部させるのは、先生と現役部員の責務である。

OB会としてはOB会員の子息やジュニアチームの情報提供に努めるくらいである。

※ 目標は毎年10人以上の新入部員の確保、1・2・3年生合わせて30人以上

2) 現役の3年生部員が6月の総体が終わっても10月の全国大会県予選まで部活を続けるように、先生、父母の会、OB会が一体となり、雰囲気、環境作りに努めて行くようにする。

2-2. 父母の会による支援

昨年6月に父母の会が発足し、試合の応援、合宿の手伝いなど行っているが、会の運営方法(役員、会費、会議、やるべき項目、など)を決めて活動を活発に行うようにする。

2-3. ミニ合宿の回数増

昨年までは普平の合宿のほかはミニとして1～2回であったが、今年は各大会前に4回のミニ合宿を行う。

※ OB会から指導者の応援、出来る範囲での資金援助

2-4. OB集合日の設定

本年1月から第2・第4日曜日をOB集合日とし、グラウンドに集合し、先生の指導の下、現役の指導を行う。

特に第2日曜日を重点とし、多くのOBに集合してもらう。

2-5. 日常指導の強化

常連ばかりに任せることなく、多くのOB指導者の応援をお願いします。

2-6. 応援者の動員増と応援マナーの確立

公式・練習試合への応援者は最近増えてきてはいるが、OB・父母合わせて、未だ10人くらいで淋しい。

昨年9月に開設した日立一高ラグビー部OB会のホームページ(半年で5,000件の利用があった。)に予定が出ているので是非ご利用願ひ、多くの応援をお願いします。

応援は自陣側に一箇所に陣取り、選手の応援をし、挨拶を受けるようにする。(先々は小旗を持っでの応援もやる。)

※ いずれの項目もラグビーの一流校では、当たり前なことではあるが、そこを我々は目指していく事にします。

3. 学年幹事の見直し

当該学年の代表として幹事会への参加、学年内の連絡をしていただくのに、会議に出てこない人がいるので、見直しを行い、活性化を図る。

(OB会幹事長 近藤雅年)

○ 全国大会県予選(ベスト8)と新人大会(5位)の戦績

<戦績>

平成19年度全国高校総体兼第87回全国高校ラグビー大会県予選

1回戦 日立一 85-7 藤代紫水

2回戦 日立一 57-33 荻崎

3回戦 日立一 14-5 水城

準々決勝 日立一 0-93 つくば秀英

【ベスト8】

- ・ 今大会は、1試合でも多くゲーム(公式戦)を経験すること、シード校相手にチャレンジすることを目標に臨みました。久しぶりの公式戦ということもあり、試合序盤での失点から追い上げるゲーム展開が続きました。しかし、自分たちの形に持ち込んだ時の動きには自信を持っていたので、あわてずに力を発揮することができました。3回戦でのシード校撃破、そして準々決勝での実力校へのチャレンジは貴重な経験となりました。4試合とも試合内容(大雨中戦あり。大勝・点の取り合い・タイトな守り合い・大敗など。)が異なり、収穫の多い大会となりました。



平成19年度茨城県高校ラグビー新人大会

予選リーグ 日立一 85-0 勝田

日立一 0-88 茗溪学園

5位決定戦 日立一 59-10 水城

予選リーグ2位で順位決定戦へ

【第5位】

- ・ 今年度は、「予選リーグ・決勝トーナメント」の併用で実施されました。組み合わせで茗溪学園、勝田と同リーグで対戦。全国大会出場した茗溪学園とは久しぶりの対戦。選手達は、体をあわせて戦うことができ、この敗戦から何かを感じ取ってくれたと思います。予選リーグは1勝1敗で5位決定戦に参加しました。相手は、今年度4大会うち3回目の対戦となる水城高校でしたが、前大会以上に点差をつけ勝利しました。(この結果、第5位となり次大会はシード校として大会に参加します。)



・ 関東高校都県対抗戦

今年で第8回を迎える都県対抗戦ですが、全茨城チームに本校より3名が選出され出場しました。全茨城は、当初2試合予定のところ、降雪のため大会第1日目が中止となり全東京との対戦(0-40で敗戦)のみ実施されました。結果は残念でしたが、個々のレベルが高い選手たちと1つのチームになり参加できたことは選手自身、とても有意義であったのではないのでしょうか。

これからも本校より多くの選手が参加する大会にしていきたいと思っております。

(監督：橋本晃輝)

○ 菅平合宿に同行して

「小さい時からの思いより、はるかにラグビー一色」

OB会幹事長 近藤 雅年

50数年前に高校でラグビーを始め、社会人となり、年齢と共にこの日立地域でポパイ倶楽部、不惑倶楽部で楽しむラグビーをやってきた。その間、菅平での合宿経験は一度もなく、私の中では“菅平は聖地であり、死ぬまでに一度は行って見よう”と思っていた。

そんな時、現役強化の菅平合宿に、OB会として指導者を派遣することとなり、一昨年、昨年と一高と太田一高の合同合宿に吉田会長、尾又副会長、益子アドバイザーと私の4人が同行することとなった。一昨年の様子は益子氏が会報7号に、昨年の様子は橋本先生が9月にOB会ホームページ上に技術中心に掲載しておりますので、私からはラグビーのメッカ“菅平の紹介”という形式で、今後OB会・父母の会の皆様が現役の応援に行き易くなるように解説いたします。

1. 往きは夜10時に日立を立ち、水戸、小山、前橋、渋川、中之条、長野原、嬬恋、を通り朝4時に菅平に着き、車中で2時間の仮眠をし、7時半に現役が泊まっている宿舎に行き所沢から来た益子氏と合流し9時から練習に参加。

帰りはその日の練習が終わった夕方6時に菅平を立ち、来た時のコースを一路日立に向い、夜中の12時半にわが家に帰る。

往きは前橋の屋台で、帰りは佐野でラーメンの夜食。

日中の練習に目一杯現役と付き合い、夜中に車で走るという合理的時間の使い方をした。

尚、一般道では6時間かかるが、現役のように高速道路(常磐道～外環道～関越道～上信越道)を利用すれば、4時間と短縮できるが高速代がかかる。

2. 菅平高原は上信越高原国立公園の中にあり、日本100名山(四阿山、根子山)に囲まれた高原地帯(標高1,300m)で夏季冷涼で平均気温は19度と日立が真夏日30度の時の遠征はまさに快適。涼しいので半袖・短パンでグラウンドにいと陽差しは強く、2日間で手・足の皮が剥ける。女性は要注意。

夏はラグビー、サッカー、テニス、ゴルフ(菅平CC)、陸上、乗馬、冬はスキー(ダボススキー場)とスポーツの盛んな所で田舎なのに多くの人に出会う。夏の冷涼な気候を利用した高原野菜(主にレタス)の栽培が盛ん。食事の度に、旅館でも外食でも、みずみずしいレタスが出る。

3. ラグビーのメッカといわれるのは、菅平高原には町所有、宿泊所(ホテル、旅館、民宿、ペンションなど約200軒あり、うち60軒)所有、企業・大学所有のグラウンドが合わせて約100面もある。夏季の合宿シーズンには期間中、一つの宿泊所に2つ以上のラグビーの団体が宿泊し、このグラウンドを使っている。

毎日3,000人以上のラグーマンが練習や練習試合をし、関係者のOBや父母の方が応援に来ている。

朝早く外に出ると小中学生、高校生、大学生、社会人が纏まって準備体操をしたりランニングや散歩をしている。

街の繁華街にはラグビーサマーショップが並び、お土産を買う客で賑わっている。

現役は宿で朝・昼・晩と3食出るが、関係者は現役とは同宿出来ず別な宿にお世話になり、そこでは昼食が出ないので外食するが、ラグビー定食とかラグビーラーメンなどのメニューがある。

街の駐車場には全国各地のナンバーの大型バスが駐車しており、全国から合宿に来ているのがよく分かる。

4. 現役の日課は早朝ランニング、朝食、9時から12時まで練習、昼食、14時まで休憩し、14時から18時まで



〔合宿中のグラウンド〕

で練習、宿に戻って入浴、そして夕食、あとミーティングがあり、就寝とまさにラグビー漬けの毎日。

菅平合宿の良いところは、下界から離れ、雑念を捨て長時間練習する事も然ることだが、全国のレベルのいろいろなチームと一日に2～4試合の練習試合が出来る事にある。

又、一流チーム同士の練習試合が毎日あり、それを見ることが出来る。

5. 私たちが泊まった宿は一泊二食つきで一人7,500円と高くないが、それなりの食事です。酒類はなるべく持ち込んで欲しい由。

お風呂に入っていたら、超OBの方が4人入ってきて、益子氏をみて早稲田の監督であった事を知っていて、現在の早稲田の批評を真剣にし、益子氏もタジタジの場面が出るほど精通している早稲田の行くところどこにでも追いかけて応援している人たちがいました。こんな人たちがたくさんいるのです。

また、宿の食堂で4人で一杯やりながら夕食をとっているところに、ほかの父母20人(殆ど夫婦)が入ってきて、同席する事になり、益子氏のもと早稲田の監督である事を知るや、近ずいてきて、尾又氏の明治談義と合わせて話が盛り上がり飲むほどに意気投合した。聞けば名古屋の明和高校の父母で、合宿応援に2泊3日で来ている由、県内有数の優秀な学校で、部員が40人いて3年生の最後まで部活をしているとのこと。成績はベスト4～8で県内での優勝はない。わが高が進学校で全国に5回出ていると知り、興味津々の話し合いとなった。

先生と連絡を取り、予定外に翌日朝のうちに練習試合をする事になり、対戦結果は当校のぼろ負けとなった。3年生が12人と1人のわがチームの差は歴然であることを知らされました。

その晩、宿の食堂で再会し、差し入れをされましたが、前日と違い盛り上がりの少ない飲み会となりました。

進学校でも、先生、父母、OB特に父母がその気になれば3年生までラグビーをやってくれる事を教えられました。

○ 会瀬青少年の家でのミニ合宿

全国大会県予選に向けて、10月13日(土)～14日(日)に、日立市の会瀬青少年の家で1泊2日のミニ合宿を開催しました。

13日(土)は、全国大会県予選1回戦の終了後、会瀬青少年の家に移動してビデオで試合を振り返り16:30～屋外炊飯場で、バーベキューを食べながらOB・現役・保護者の懇親会を開催。準備には、OBの大内二郎さん(昭和27年度・第5回卒)に大変お世話になったほか、保護者の皆様には多数お手伝いをいただきました。

OB会長あいさつの後、OBからは自己紹介と激励の言葉、現役からも自己紹介と今後の抱負・目標等を述べ、キャプテン長谷川君の父上からごあいさつをいただき、最後は橋本監督のあいさつで終了しました。

14日(日)は、6:30起床 会瀬漁港の灯台まで散歩してから朝食。

9:00～12:15 BKはストレート・ランや縦へのスピード、フォローアップなど基本的なプレイを中心に取り組みました。

FWはOBの胸を借りてスクラム、スクラムからのサイドアタックのディフェンスと、時間のたつのも忘れ(来週が公式戦であることも忘れて)、ガツンガツンと音を立ててぶつかりあいました。

14:00～16:20 午後は、タッチフットでウォームアップした後、FW・BKに分かれてユニット練習、最後はオールメンでアタック&ディフェンス。オフenseのコース取りやキック処理など、細部にわたってチェックし、次週の試合に万全を期しました。

久しぶりに若手?OBが大勢練習に参加し、活気に満ちた・実のある練習ができましたが、残念ながら写真を撮るのを忘れました。・・・次回からは写真も交えながらお伝えしたいと思います。(OB会事務局 木下俊雄)

○ 新春恒例の「蹴り初め」を開催



新春恒例の「蹴り初め」を1月3日(木)に日立一高グラウンドで開催しました。

暖かな好天に恵まれ、老若合わせて約70人のOBが集まり新年あいさつの後、午前10時30分から20歳代・30歳代・40歳以上の3チームを編成してOB戦を実施。

現役チームもよく頑張りましたが、経験と体格の差は如何ともしがたく、20分×3ラウンドを通して奪ったトライはわずか1本。OBの厚い壁を破ることはできませんでした。

試合後は、3日後に迫った新人戦に向けて、OBが胸を貸して練習台になり、最後はこれも恒例の「豚汁」を食べて解

散しました。いつもながら、大内二郎さん（第5回卒）・保護者の皆さん、早朝からの準備ありがとうございました。

（OB会事務局 木下俊雄）

○ 第3回OB会会長杯ゴルフコンペのご報告

昨年11月11日（日）、茨城パシフィックカントリー倶楽部で18人が参加し行われました。当日は朝からの雨で開催が危ぶまれましたが、無理して小雨の中スタート、ずぶ濡れになりながらのプレイで、終わってしまえば楽しい思い出となりました。

成績は村山氏が第1回からの3連続優勝で、終了後の本人談は“ここはメンバーなので、自分に有利なようにシンペリアの採点をしてきているのかな？次回は場所を変えてやろうよ”と皆を励ましていました。

開催に際し、鈴木正典氏、齋藤廣氏、松永氏、後藤氏、岡部英明氏からご寄付を頂きました。賞品に使用させていただき、大変ありがとうございました。

尚、第1回の参加者は27人、2回は17人、今回は18人と予想より少なくなっておりますが、折角出来たOB会のコンペなので今後も継続することにします。



第4回（今年）は11月8日（土）に予定しておりますので多くの方の参加をお待ちしております。

今回も前夜に10人（ゴルフ不参加者4人含む）が平潟の民宿に泊まり、酒盛りをし、翌日のゴルフが辛いくらい大いに旧縁を温めていました。（ゴルフが大雨の中のスタートのため、記念の集合写真が撮れず、前夜の酒盛りメンバーの写真を掲載しました）

（OB会幹事長 近藤雅年）

○ 父母の会よりのご報告

父母の会会長 長谷川 昌規

力不足で大変恐縮ですが、今般父母の会会長という大役を仰せつかりました2年生の親の長谷川昌規です。

今後、微力ではありますが、名門日立一高ラグビー部発展の為、そして子供達が楽しく高校生活を送れるように、少しでもお役にたてればと思いますのでご指導の程宜しくお願い申し上げます。

さて、父母の会は、3月8日（土）に白亜会館で、橋本先生、OBの近藤幹事長、木下事務局長、益子アドバイザーそして父母が16名の合計20名が出席して開催されました。



開催にあたっては、事前に部活動に関するアンケートを行い、それを元に活発な意見交換が行われました。アンケートによると、試合の応援に行きたいと思っている父母が全体の94%、又、親として子供がラグビーをやっていることが頼もしいので頑張ってもらいたいというのが100%と、非常に嬉しく且つ頼もしい結果がでておりました。



【3月8日（土）第2回父母の会を開催】

ただ、そのような中で父母の一番の心配事は、やはり進学・勉強のようで、それらの心配事を敏感に感じて、益子アドバイザーから、部活を通じて勉強が向上できるような仕組み作りを考える必要があるのではという、父母にとっては願ったりかなったりの意見が出され大いに盛り上がりました。

又、OB会のご好意により応援に使用する小旗の製作、父母会役員の選出、会則の作成等、多くの有意義な議事決定を行ない、次回は新一年生が入部する5月頃に開催することを約束して終了しました。

最後に、私は息子が高校でラグビーをやるまではラグビーには

全く興味はありませんでした。夫婦で息子の試合に応援に行くうちに、チームのために15人が懸命に、ひたむきに格闘する姿に接し、ラグビーの虜になりました。現在は試合に、菅平合宿にと生徒が行くところへと追っかけをやっております。

超OBの方が母校のために、時間を割いて先生のバックアップをしている姿や、その仲間が集い、楽しんでいるところを見ていて、素晴らしいスポーツだなと実感しております。

今日も女房は日立一高ラグビー部OB会ホームページを開いて、何かないかと楽しんでいます。

今後、OBの方々にご指導を頂きながら進めていきたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

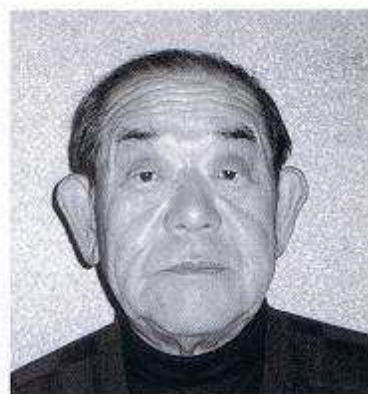
○ OB通信

このコーナーは、20～30歳代・40～50歳代・60歳以上の各世代のOBの方々に、お一人ずつ昔の思い出や近況等のご紹介をいただいています。

今回から名称を「OB通信」に改めてお届けします。鈴木正典さん、石井博美さん、野田浩太郎さん、お忙しい中ありがとうございました。

「ラグビーがくれた永遠なる友情」

鈴木 正典（昭和30年度・第8回卒）



日立一高創立80周年記念誌「飛躍」に部の紹介でラグビー部の公式戦111連勝、全国大会5回出場、関東大会28回出場等の輝かしい実績が記載されている。この素晴らしい記録を残してくれた後輩達は新たな感激と誇りを与えてくれた。大変嬉しいことだ。

関東大会初出場は私が3年生のときで、昭和30年、久里浜で開催された第3回大会である。チームメイトに現会長の吉田尚一氏が2年生でFWの中心として活躍していた。試合は豊多摩高に敗れたが、日立一高関東大会28回出場の原点になったのは事実であり、今後の活動の原動力になったと思っている。

当時県内で社会人最強であった日鉦チームに胸を借りたことがあった。チームにはジャパン級の寺西、渡部（いずれも明大出）がおり、彼等の見事なプレーに大いに刺激された。土曜日には日鉦参りが多かった。2人の先輩がチームで活躍しており、雨天にもかかわらず厳しい指導を受けた。故内山先輩もよく顔を出して頂き、指導されたことが懐かしい。終了後の入浴は最高に心身ともに癒してくれた。

高校最後の試合は全国大会予選決勝の水農戦であった。1トライを奪ったが敗退してしまい、ついに水農の厚い壁を破れず悔しさを抱いていたが、後輩がリベンジを果たしてくれて鬱憤が晴れた。現役チームは一時低調で気を揉んだが、最近は著しい復調振りが嬉しく心強い。期待したい。一度しかない青春の情熱を燃焼させ、自らを鍛えて価値ある人間として成長して欲しい。

私は古希を過ぎたが老化防止にスポーツに親しんでいる。孫は9人にも恵まれ、時にはサッカー等で孫を相手に汗を流している。スポーツは人間形成に必要な多くの精神的要素を与えてくれる。特にラグビーはラグーマンしか分らない太いきずなをもった友情を培ってくれる。それも永遠に！

「芝生の上」

石井 博美（昭和41年度 第19回卒）

昭和39年、私が入部した当時の日立一高ラグビー部は、2・3年生に個性のある先輩が揃った強いチームでした。それをまとめていたのが、大高キャプテン、監督に大和田先生、そしてその頃から尾又氏、小峰氏、今はお亡くなりになってしまいましたが川崎氏等々、多数の先輩方に指導していただきました。

当時の寒さが厳しい2月頃、日立鉦山のグラウンドで練習をしたことがありました。ぬかるんだ後での練習の名残りなのか、それが寒さでカチカチに凍って、ま



るで洗濯板の上でラグビーをしているようです。タックルをしたりされたり、スクラムやモール、そのたびに身体はグラウンドに倒れ、肩・腕・足、すり傷のてんこ盛りでした。あの頃の痛みや苦しみ、そして仲間や先輩・後輩達とのふれ合いは、今でも大切な、そして大事なこととして忘れられません。

今ではテレビ等で大学や社会人、そして花園での高校の試合を観戦するだけですが、それにしてもあの柔らかな芝の上でラグビーをしたかったと思わずにはいられません。

第1回目のゴルフコンペのときには、卒業以来久しぶりの友人にも会いました。幹事の皆様有難うございました。柔らかい芝生の上でのラグビーはできませんでしたが、ゴルフコースの上に立つと、何十年か前のあの当時を思い出す今日この頃です。

P. S. 花園の芝の上で日立一高ラグビー部のジャージが踊っている様子を、そして観客席で応援している私達の姿を、いつか、いつの日にか。

「情熱」 野田 浩太郎（平成2年度 第43回卒）

心のそこから笑ったことはありますか・・・。
おもいきり喜んだことはありますか・・・。
本気で悔しいと思ったことはありますか・・・。
体から湧き出る涙を流したことはありますか・・・。
緊張と興奮で体が震えたことはありますか・・・。
全身にみなぎる闘志を感じたことはありますか・・・。
仲間を大切に思ったことはありますか・・・。



【後列の左端「両手ガッツポーズ」が筆者です。】

「やだなあ」「めんどくせえなあ」ということに立ち向かったことはありますか・・・。
目標に向かって努力したことはありますか・・・。
大きな“夢”を持ったことはありますか・・・。

これらのことに「はい」と答えられる人はどんな人だと思いますか・・・。
今までと違った自分に会いたくありませんか・・・。

目先のものやお金に目を向けすぎていませんか・・・。
何もしないうちからあきらめていませんか・・・。
いま自分にはなにが必要だと思いますか・・・。

勇気を振り絞ってなにかに挑戦してみませんか・・・。
熱き挑戦者として、絆を胸に、信念を貫いてみませんか・・・。



このようなことを自分自身に、また、若者に問いかけながら、日立一高で出会うことのできたラグビーというスポーツに打ち込んでいます。

○ 訃 報

初代OB会幹事長 内山光志氏にありましては昨年12月に73歳で他界されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。



【60周年記念式典で謝辞を述べる故内山氏・・・向って右】

氏は日立一高ラグビー部OB会の初代幹事長を永年務め、一昨年の創部60周年記念式典の席上でOB会から感謝状を授与されたばかりでした。

ご冥福をお祈り申し上げます。

○ 誌上「広告欄」について(お願い)

OB会の財政安定化をはかるため、会報冒頭の役員会報告にもありますように、次号からOB会員で事業経営に携わっている方等において、OB会報に企業等の広告を掲載しようと計画しております。別途書面にてお願い致しますので、その節は宜しくお願い申し上げます。

なお、以下に広告のサンプルを掲載いたします。

株式会社〇〇建設

代表取締役 〇山 〇夫

(昭和〇〇年度 第〇回卒)

日立市〇〇町〇丁目〇番〇号

電話：0294-〇〇-〇〇〇〇

私たちは、日立一高ラグビー部を
応援しています！

有限会社△△商店

代表取締役 △川 △蔵

(昭和△△年度 第△△回卒)

△△市△△町△△△△番地

電話：△△△△-△△-△△△△

日立一高ラグビー部OB会 役員会

会長 吉田 尚一

(昭和31年度 第9回卒)

日立一高ラグビー部 父母の会

会長 長谷川 昌規

(ほか 保護者一同)

○ 編集後記

OB会報第9号は、またしても1か月遅れの3月末日発行となってしまいました。寄稿者の皆様には、早く早くと原稿を督促しておきながら、肝心の編集作業が滞りがちで、誠に申し訳ありませんでした。

さて、OB会報を平成17年1月に復刊させて丸3年がたちました。復刊当時は現役チームも各大会にエントリーするのが精一杯という状況でしたが、60周年記念事業を契機として徐々に復活の兆しが見え始め、今年の新人戦では第5位に食い込み、いよいよ関東大会出場(県3校出場)が射程距離内に入ってきました。

また、高校生の部活動には欠くことのできないのが親(保護者)の理解ですが、これも昨年6月に「父母の会」が発足し、OB会と連携を図りながら現役部員を支援する体制が整いつつあります。

今年も4月になると新入生が母校の門をくぐります。一人でも多くの生徒がラグビー部に入るよう、お知り合いやご親戚等で「これは！」という子がいましたら、ぜひラグビー部に勧誘してください。(もちろん、ご子息も!!)

今後とも、現役やOBに関する情報をお届けしてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(編集担当幹事：松永 啓)

日立一高ラグビー部OB会報 第9号

発行責任者：幹事長 近藤 雅年(昭和32年度 第10回卒)

編集者：幹事 松永 啓(昭和40年度 第18回卒)

関 稔一(昭和57年度 第35回卒)

笠井 知洋(昭和59年度 第37回卒)

本田 浩一(平成2年度 第43回卒)

木下 俊雄(昭和54年度 第32回卒)

柴田 和則(昭和57年度 第35回卒)

菊池 敬(昭和61年度 第39回卒)

金澤 勉(平成4年度 第45回卒)

事務局：〒317-0065 茨城県日立市助川町3-7-4 木下俊雄気付

【電話】0294-21-4890 (FAX同じ)